

令和4 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年3月1日

法人名

園名

森と風の郷

四季の森こども園

まとめ

全体平均

4.05

<p>第2章第2節 乳児期の園児の保育</p>	<p>子ども一人ひとりにしっかりと寄り添い、様子や状態を職員間で共通理解しながら向き合うことが出来た。子どもたちにとって安心できる大人として優しく温かく接していきたい。子どもたちが成長できるように、発達段階に合わせた声掛けや関わりをしてけるよう職員間での情報の共有を密に行っていく。衣・食・住その子どものペースに合わせて、保育を行うことを意識していくことが大切。</p>
<p>第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育</p>	<p>子どもたちとの言葉のやりとりを楽しみながら、一人ひとりの気持ちや様子に寄り添うことができた。保育者が子どもたちに向けて安心感を与えられる言葉かけや、成長する上での様々な経験への仕掛けをしていきたいと思う。その中で子どもたち一人ひとりの気持ちを尊重し、温かく見守りながらの適切な援助も必要だと思った。少人数での遊びの展開の必要性を感じ、一つひとつの行動を丁寧に展開していく必要性も感じる。</p>
<p>第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育</p>	<p>食育・木育ともに子どもたちの興味関心のある活動内容に十分に取り組むことが出来た。自分たちで育てた野菜をランチ室へ持っていき食べることで子どもたち自身が関わることでさらに関心が深まった。木育活動では木への関心を深めるだけでなく自分たちで作った物を実際に日常で使い、お手入れすることで物に対しての思いやりを育てるきっかけとなった。今後も子どもたち自身が活動の中で見通しを持って取り組めるようにさらに仕掛けていきたい。</p>
<p>第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項</p>	<p>子ども一人ひとりを職員全体が把握できるよう共通理解を密に行い、見守っていけるように心掛けることができた。また、子どもたちが伸び伸びと過ごせる環境づくりを行い、保護者の子育ての不安や悩みなど、保護者の気持ちに配慮して対応して行きたいと思う。子どもたちと関わる保育者自身も子どもたちにとって「昼間の家庭」として温かな関わりをしていくことを心がける。</p>
<p>第3章 健康及び安全</p>	<p>コロナ感染症対策を十分に行いながら、楽しくランチタイムを過ごせる工夫を行うことができた。うがい手洗いも子どもたちも日常的に自分たちでできるようになってきた。ケガなどの応急処置の仕方や、危機管理マニュアルの対応を改めて見直していく。熱性けいれんなどの救急時の対応マニュアルを職員全体で周知していきたいと思う。食育に力を入れていくことで、健康への関心を高めていきたい。</p>
<p>第4章 子育ての支援</p>	<p>支援センターを中心に地域の子育て支援や子育て相談の場として温かな場所になるような活動を提供していきたい。園での保護者への子育て相談や個別の相談などの時間を設けたり充実させることが今後の課題だと思う。さらに配慮の必要な子どもに対しての特性の理解を、専門機関と協力しながら支援していくことを図っていきたい。</p>
<p>第5章 職員の資質向上</p>	<p>web研修だけでなく、視察研修などの機会が少しずつ増えてきた。それにより保育の充実も図れるため今後も小グループ(木育・食育・環境・012歳児345歳児)でのミーティング内で研修報告や普段の保育での疑問や相談など意見を出し合っていきたい。少しでも職員同士が意見を出し合いやすい環境や時間を整えていきたい。</p>
<p>総合</p>	<p>子どもたち一人一人に誠実に向き合い、「昼間の家庭」として日々の保育に取り組んでいくことができた。日常の保育の中で木育や食育など興味・関心ももてる活動が少しずつ充実してきているが、子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくりなどまだまだ課題はある。今回、自己評価を行い数値にしたことで不足している項目や課題を明確に理解することができた。「子育ての支援」や「教育保育の配慮事項」など低い所は職員全体で意見を出し合い今後に繋げていきたいと思う。支援センターとともに子育ての支援についても地域と繋がる園を目指していきたい。</p>

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.30
「3歳未満児保育」	32	4.08
「3歳以上児保育」	53	4.02
「教育保育の配慮事項」	16	3.93
「健康・安全」	29	4.10
「子育ての支援」	18	3.97
「職員の資質向上」	9	3.93
計	172	4.05

データグラフ

